

# “KANAGAWA” 福祉タイムズ

2003 **7** No.620

発行日 2003年（平成15年）7月15日  
毎月1回15日発行  
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2  
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会  
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302  
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/>  
編集発行人 清水勝夫  
定 価 100円（郵送料込）  
印刷所 神奈川新聞社  
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「共に生きるパイプ役として」8歳の時ベトナムからポートピープルとして日本にきた藤田和久さん（右）は、子どもの頃は「外国人」と言われ随分いじめられたという。「運動会のお弁当は一人隠れて食べた。修学旅行も行けなかった。そんな思いを自分の子どもたちには絶対にさせたくない」と話す。現在は入居している「いちよう団地」で、異文化交流と共生社会に向け活動している団地自治会の坂本利恵さん（左）たちに支えられ、自治会活動や体育指導委員として積極的に活躍している。（写真・文 菊地信夫）



先月、新聞に昨年の合計特殊出生率（一人の女性が生涯に産む子供の数）が載っていた。少子化が進んでいるせいとその数値は、なんと一・三二人。いろいろな点から子どもを育てにくい社会経済環境にあるせいでしょうか。横浜市社協では子育てサポートシステム（登録制の地域における子どもの預け、預かり合い）という事業を実施していて、二千五百名を超える会員がいます。

つい先日、利用登録者からこんな意見を頂きました。  
ひとり親家庭のお父さんから、子どもの送迎と夕食支度を……。できれば自分の夕食も、という依頼でした。

サポートシステムでは、ご家族の支援はできないので、行政のサービスを紹介しましたが、当日は土曜日ということもあり区役所は休み、子育て支援をするというのなら二十四時間対応、あるいは土日対応しなければ働いている人には使えないこんな内容でした。一人ひとりのニーズにいかに対応していくか。

昔から言われていますが、靴に足を合わせるのではなく足に合わせた靴をどうつくるか。二十一世紀の課題でもあるようです。

横浜市社協地域活動部長 小嶋正夫

## 目次……………CONTENTS

外国籍住民と共生できる地域づくりを……………	2・3
福祉とITを語るワークショップ開催される……………	4
平成14年度県社協監査意見書公告……………	5
福祉用具展示場をご利用ください……………	6
かながわ長寿社会開発センターいきはつらつ……………	7
連載・心のゆたかさをはぐくむ(4)……………	10・11